

79

○

○

研-0 6 1 3

2004

18. 3. 30

意注行施

支分第三

昭和三十八年三月廿六日
昭和三十八年三月廿六日
昭和三十八年三月廿六日

行施 裁決 官房
昭和三十八年三月廿六日
昭和三十八年三月廿六日
昭和三十八年三月廿六日

商工課長

主任

森岡

次

官本

文書課長

總務課長

理財課長

合和製薬股份有限公司設立ニ関スル件

案

年月日

張家口公使宛

大臣名

(件名)

三月三日附秘第一一四號ヲ以テ經伺ニ係ル首題ノ件御表示
條件ニテ承認方取計相成度

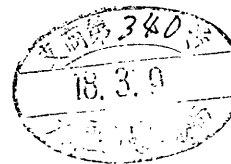
昭和拾八年參月九日 接受

秘第一一四號

昭和十八年三月三日

在張家口大日本帝國大使館
特命全權公使 岩崎 民

大東亞大臣 青木一男 殿



別紙添付

興亞院蒙藏連絡部

合和製藥股份有限公司設立認可申請ノ件

首題ノ件蒙古政府ヨリ別紙寫ノ通達給有之候處本件ハ從來内地ニ向ケテ原料ノ儘供出シ來リシ麻黄ヲ當地ニ於テ加工シ「鹽酸エフエドリ」トナシ以テ内地ノ需要ニ應ジ併セテ現地自給ニ充テントスルモノニシテ所要設備ハ舉ゲテ内地ニ仰グモノナルガ之ハ過般中央ニ於テ賄カレタル内地遊休設備移設ニ關スル打合セノ除當方ヨリ説明シタル如ク本會社ヲ構

興亞院蒙藏連絡部

成スル一員タル大日本製藥株式會社大阪工場ノ有スル遊休資材ヲ以テ之ニ充ツルモノニシテ、左記條件ヲ附シ承認セシメテ可然ト思料候條内議ニ附シ候

記

一、資本金百萬圓ヲ九拾萬圓ト爲スコト

一、販賣價格ニ付テハ監督官廳ノ統制ニ服スルコト

尙本件ニ關スル資金（内地）ハ昭和十七年度内地會金枠中雜産業豫備ノ内ヨリ賄フモノナルニ付爲念

蒙政發第一一九號

成紀七三八年二月二日

蒙古自治邦政府
總務廳長 武 內 哲 夫

在張家口
特命全權公使 岩 崎 民 男 殿

合和製藥股份有限公司設立ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ成紀七三七年十二月二十五日附ヲ以テ合和製藥股份有限公司設立發起人代表元木丈夫ヨリ申請アリタル處右ハ麻黃ヲ原料トシ「鹽酸エフエドリン」ノ製造ヲ爲サントスルモノニシテ左記埋田ニ依リ機宜ヲ得タルモノト認メラルヲ以テ認可スル方針ナルニ付事則及連絡

記

「日本ニ於ケル「鹽酸エフエドリン」ノ需要ニ對シ内地生産量ハ僅少ニ

興亞院蒙政課部

シテ之ガ充足ハ緊急ヲ要スルコト

一、出資者ハ大日本製藥株式會社、武田長兵衛商店ノ二社ニシテ資本的ニモ技術的ニモ難色ナキコト

一、製造設備ハ大日本製藥現有ノ設備ヲ移設スルモノニシテ日本遊休設備利用ノ趣旨ニ鑑ミ機宜ヲ得タル計畫ナルコト

一、原料麻黃ハ當地區（特ニ大同省）ニ豊富ニ產出シ之ガ蒐賈ハ過去ノ實績ニ徴シ比較的容易ナルコト

附 件

合和製藥股份有限公司設立認可申請書

二部

合和製藥股份有限公司
設立發起人代表 元 不 天

合和製藥股份有限公司設立認可申請書

今般發起人等相計リ首題公司設立致電ニ付格別ノ御詮議ヲ以テ御認可賜
賤謝係書類相添此段及申請候也

年 月 日

蒙古聯合自治政府
經濟部 長 馬 永 魁 殿

添	一 設 立 趣 意 書	三 事 業 目 論 見 書	三 收 支 計 算 書	四 公 司 定 款	五 發 起 人 履 歷 書	六 技 術 者 履 歷 書	七 發 起 人 代 表 へ 對 ス ル 委 任 狀	八 健 築 並 機 械 ノ 設 計 圖
類								

設
立
趣
意
書

研-0 6 1 3

（昭和14年）1-2月 支那の状況

合和製薬股份有限公司設立趣意書

大東亞戰完遂ニ當リ東亞共榮圈内物資ノ交流ヲ圓滑ナラシメ輸送方法最モ合利的ニ且ツ迅速ヲ要スルハ論ヲ俟タス然ルニ製薬地域ニ産スル各種藥草ハ其ノ種類、數量甚タ多キモ末々之ヲ原料トスル加工製造業無ク從來原草ノ儘日本、中南支及第三國向ニ輸出セラレタリ就中製薬藥草ノ大宗タル麻黄ハ嵩高キ荷物ニシテ之カ圓滑ナル輸送ハ頗ル困難ナル現狀ニアリ

近年内地へ輸送ノ麻黄ハ一ケ年間約一千噸ニシテ之ヨリ「純鹽酸エフエドリン」トシテ三噸乃至四噸ノ製品ヲ生産スル割合ナリ、即チ原料麻黄大部分ハ植物性不用物質ニシテ之ヲ熟々内地マデ貴重ナル船舶ト勞力ヲ以テ廢棄セシメツ、アル譯合ナリ

斯カル商品ノ加工製造ハ必然的ニ現地ニ期待スベキガ有利ナル事論ヲ俟タズ而シテ麻黄ヲ原料トスル「鹽酸エフエドリン」ノ日本ニ於ケル需要ハ年約四〇〇〇噸ト推定セラレ累年増加シ居ルモ現在國內生産可能量ハ原料ノ圓滑ナル供給アル場合ト雖約一、二〇〇噸ニシテ尙不足ノ狀態ニ在リ支那事變前ハ獨逸ヨリ「合成エフエドリン」ノ相當量輸入シタルモ現

在ニテハ輸入杜絶シ内地製品ニテ需要ヲ満サザル可カラザルノ状態ナリ
 茲ニ於テ夙ニ故長井長義博士ノ指導ニ依リ「エフエドリン」ノ製造ニ當
 リ之ガ名聲斯界ニ有名ナル大日本製藥株式會社ノ多年ニ亘ル經驗ト技術
 ニ加フルニ東亞並ニ歐米各地ニ組織的ナル販賣網ヲ有スル株式會社武田
 長兵衛商店トノ協同ニ製藥工場ヲ建設シ不取敢願黃ヲ原料トシ「鹽酸エ
 フエドリン」ヲ年產約二〇〇〇噸以上製造ヲナシ現地ニ必要量ノ「純鹽
 酸エフエドリン」ヲ自給自足シ且ツ「粗製エフエドリン」ヲ内地ニ搬送
 シテ大日本製藥株式會社ヲシテ精製セシメ内地需要ヲ充足セシメントス
 而シテ遂次事情ニ應ジ増產ヲナスト共ニ蒙國ニ產スル一般藥草ヲ原料ト
 スル藥品ノ製造及研究ニ力ヲ注ギ蒙國地區内ニ於ケル產藥ノ發達ニ貢獻
 スル一方「エフエドリン」ノ東亞共榮圈ニ於ケル自給自足ヲ確保スルノ
 ミナラズ更ニ第三國向輸出ニモ進出シ以テ聊カナリトモ人頭ノ厚生ニ資
 セントスルモノナリ

尙株式會社武田長兵衛商店ト大日本製藥株式會社トノ關係ハ資本的ニモ
 營業上ニ於テモ齒輪車ノ密接ナル關係ニ在ル姉妹會社ニシテ前述ノ「
 エフエドリン」ノ如キモ從來ヨリ大日本製藥株式會社ニテ製造ヲナシ之
 ガ販賣ハ一手ニ株式會社武田長兵衛商店ニ於テ行ヒ來レルモノナリ

附 記

麻黃ノ内地輸送容積噸ト蒙國ニ製造工場設立シタル場合内地ヨリ大陸
 ニ輸送シ來ル副原料トノ容積噸ノ比較及輸送船舶ノ噸數對照

「麻黃ノ内地輸送數量ハ一ケ年間約一千噸ト見テ大差ナシ（斤ニ換算セ
 バ百六十八萬斤）一梱包ハ約九十斤ナレバ、麻黃一千噸ヲ梱包數ニ換
 算セバ八千八百四十二梱包トナル二梱包ニテ一才噸ニ當ルヲ以テ四千
 四百二十一才噸トナリ之ヲ貨物船ニ積メバ六千五百噸ノモノヲ要シ客
 船ナレバ七千噸ノモノヲ要ス

「内地ヨリ大陸へ輸送シ來ル副原料ノ鹽酸・硫酸・苛性ソーダ・ベンゾ
 ール等ノ容積噸概算ハ

鹽酸ハ約	三十七才噸
硫酸ハ約	二十一才噸
其ノ他ハ約	十二才噸
計	七十才噸

貨物船約壹百噸ノモノヲ用意スレバ足ル
又本品製造ニ當リ石炭ノ消費量ハ一ケ年間約三千噸ヲ要ス之ヲ附近ニ
産スル大同炭ニテ賄ヘバ茲ニ内地ニ於テ三千噸ノ輸送餘剰ヲ生ズ
右ニ記述シタル如ク大同ニ製造工場ヲ設立シタル場合麻黄及石炭ノ輸
送ニ約壹萬噸ノ船舶ニ餘剰ヲ生ゼシメ之ヲ他ノ重要物資輸送ニ振向ケ
得ラル、モノナリ
茲ニ於テ二社協同ノ上前記製藥工場設立方及出願候次第ナリ

事 業 目 論 見 書

一 資金調達ノ方法、時期及調達地別金額

調達ノ方法	時期	金額	内			
			日本	満洲	華北	蒙疆
第一回株金拂込後收	御許可後三ヶ月以内	1000000圓	1000000圓 (現物出資 二五二、一〇〇圓 ヲ含ム)	0	0	0

資金ノ使途

固定資金	工場建設費	四六三、三四六圓
	機械設備費	二九四、一〇〇圓
流動資金		二四二、五四圓
計		1000000圓

「機材明細、並入手方法

イ、發註機器

ナ

ロ、中古機器

機 器 名	數 量	單 價	價 額	買 入 先	調 達 方 法
ランカツンヤーボイ 附屬品一式	二基	二二〇〇〇	四四〇〇〇	大在日本製藥株式會社	在社日本大日本製藥株式會社
エフエドリン抽出機	六基	一七〇〇〇	一〇二〇〇〇	同	日本製藥株式會社
エフエドリン抽出補助機	一臺	四五〇〇	四五〇〇	同	日本製藥株式會社
眞空蒸發釜	二臺	四〇〇〇	八〇〇〇	同	日本製藥株式會社
ブランジャーポンプ	一臺	七〇〇	七〇〇	同	日本製藥株式會社
ウオシントンポンプ	二臺	一六〇〇	三二〇〇	同	日本製藥株式會社
水揚ポンプ	二臺	二〇〇〇	四〇〇〇	同	日本製藥株式會社
眞空蒸發ポンプ	三臺	二二〇〇	六六〇〇	同	日本製藥株式會社

機 器 名	數 量	單 價	價 額	買 入 先	調 達 方 法
深井戸ポンプ	二臺	一七五〇	三五〇〇	同	日本製藥株式會社
眞空蒸發用レシーバー	六個	四〇〇	二四〇〇	同	日本製藥株式會社
麻黄切斷機	六臺	一六〇〇	九六〇〇	同	日本製藥株式會社
研磨機	二臺	二五〇〇	五〇〇〇	同	日本製藥株式會社
バイブ類	一式	一七五〇	一七五〇	同	日本製藥株式會社
其他附備品	一式	一五〇〇〇	一五〇〇〇	同	日本製藥株式會社
シヤフト類	一式	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	同	日本製藥株式會社
三〇HPモーター	二臺	一六〇〇	三二〇〇	同	日本製藥株式會社
二〇HPモーター	二臺	一七〇〇	三四〇〇	同	日本製藥株式會社
一〇HPモーター	三臺	一七〇〇	五一〇〇	同	日本製藥株式會社
五HPモーター	三臺	一四〇〇	四二〇〇	同	日本製藥株式會社
小計			一四一七〇〇		
機械取外費、荷送費 大阪！大同間運送費			二二五〇〇〇		
右諸機器据付費			一〇〇〇〇〇		
合計			二六九二〇〇		

ハ 現地調辨機器

ナ シ

イ 建設地並様式明細

工場建設地

大同縣第二十街

ロ 様式

別紙添附工場新設計並圖御参照賜度

工場並附屬建築物明細

名 稱	建 坪	單 價	金 額
煙 突	口徑三尺	高二〇尺	一四、〇〇〇圓
工 場	一二〇坪	四四五・〇〇圓	五三、四〇〇圓
動力及ボイラ室	八〇	四五〇・〇〇圓	三六、〇〇〇圓
倉 庫	二〇〇	三五〇・〇〇圓	七〇、〇〇〇圓
事務 所	三八	四五九・五〇圓	一七、四六一圓

計	敷 地	小 計	批宅附屬建物	研究室	煉瓦塀	門 扉	井戸ボーリング共	水 桶	給排水設備費	金 額
	五〇〇〇坪		二八八坪	二五	五一〇米	一ヶ				一四五、四四〇圓
				五〇〇・〇〇圓	三七・〇〇圓	一〇〇〇・〇〇圓				一二、五〇〇圓
										一八、八七〇圓
										一、〇〇〇圓
										一六、五三〇圓
										二五、〇〇〇圓
										一八、〇四五圓
										四二八、三四六圓
										三五、〇〇〇圓
										四六三、三四六圓

四、原材料購入地並方法
イ、原料購入地並方法

品名	購入予定 量(2年間)	単 價	金 額	購 入 先	購 入 方 法
麻 黄	六〇〇〇〇 匁	〇・一五〇	八〇〇〇〇・〇〇	蒙疆及其附近	現金ニテ直接買附ク
純 鹽 酸	二六〇〇〇 "	〇・七六〇	二二六〇〇・〇〇	日 本	現金ニテ直接買附ク 在日製業者、輸出 業者ヨリ有爲替ニテ輸 入スル豫定
硫 酸	二五〇〇〇 "	〇・九〇〇	二二五〇〇〇・〇〇	"	現金ニテ直接買附ク
食 鹽	二二〇〇〇 "	〇・五五〇	一二二〇〇〇・〇〇	蒙疆及其附近	現金ニテ直接買附ク
消 石 炭	二七〇〇〇 "	〇・五五〇	一四八五〇〇・〇〇	"	"
化學用硫化 ダ	八五〇 "	〇・三三二	二八四一・〇〇	日 本	株式會社武田長兵衛商 社及大日本製藥株式會 社ヨリ有爲替ニテ輸入スル 豫定
工業用性ソー ダ	一九六三 "	〇・二九八	五八四九・七四	"	"
ベンゾール	六八七二 "	一・四八四	一〇一六五・六八	"	"
鹽化バリウム	二三八 "	〇・四四〇	一〇二三・六〇	"	"
脱 色 炭	二〇〇 "	二・七九五	五五九・〇〇	"	"

ロ、材料購入地並方法

品名	購入地	金 額	購 入 ノ 方 法
容器及被包材料	蒙疆及華北	一五、六〇〇圓	現地ニテ直接現金ニテ購入ス
試験研究用材料	蒙 疆	六〇〇圓	"
消 耗 工 具	蒙疆及華北	四、七二〇圓	"
工場消耗品	"	一一、〇〇〇圓	"
事務用消耗品	"	三、八一〇圓	"
燃 料	蒙 疆	五〇、〇〇〇圓	"
計		八六、一三〇圓	

製造法ニ販賣ノ方法

イ、製造ノ方法

原料麻黄ニ水蒸氣ヲ通シ食鹽ヲ附加シテ加熱温浸シ之ニ石灰乳又ハソーダ液ヲ處理シ、硫酸酸性水溶液ノ状態ニ濃縮シ再ビ石灰乳ヲ以テ「エフエドリン」鹽基ニ戻シ之ヲ鹽酸ニテ鹽酸鹽溶液トナシ「硫化ソーダ」ニテ灰雜スル金屬類ヲ除去シ「鹽化バリウム」ヲ以テ硫酸痕ヲ除去シ脱色炭ヲ以テ脱色シ蒸發濃縮シテ鹽酸鹽ノ結晶ヲ析出シ乾燥シテ「粗製エフエドリン」ト稱ス母液ハ苛性ソーダ液及ベンゾールヲ處理シテ「エフエドリン」ヲ回收ス。精製方法ハ「粗製エフエドリン」ヲアルコール及エーテルニテ數回再結晶法行ヒテ精製スルモノナリ

ロ、販賣ノ方法

弊社製品ハ總テ之ヲ株式會社武田長兵衛商店ニ販賣シ株式會社武田長兵衛商店ハ其ノ子會社、出張所竝ニ各取引先ヲ通シテ大東亞共榮圈各地ニ販賣ス

収 支 計 算 書

事業収支計算書（一ヶ年間）

一 収入ノ部

製品売上高（純密酸エフエドリン） 二四〇〇〇〇 円 三三〇 圓

七九二〇〇〇 圓〇〇

一 支出ノ部

六六〇七七五・〇〇

1 原料費

二二二〇〇〇 圓〇〇

2 材料費

三六一三〇・〇〇

3 容器及被包材料費

二六六〇〇 圓〇〇

4 試験研究用材料費

六〇〇・〇〇

5 消耗工具費

四七二〇・〇〇

6 工場消耗品費

一一四〇〇・〇〇

7 事務用消耗品費

四八一〇・〇〇

8 製造直接費

五一九六〇 圓〇〇

9 直接賃金

五一九六〇・〇〇

10 製造間接費

二二四九八・〇〇

11 技術者給料

二七二四〇・〇〇

（註 五名）

4	發	送	費	五二〇〇圓〇〇
5	保	管	費	四六〇〇・〇〇
6	研	究	費	六〇〇〇・〇〇
7	雜	費	五七七・〇〇	

「差引利益金」

之ヲ處分スル事次ノ如シ

一五、一五、五〇〇

「法定積立金」	一五、〇〇〇・〇〇
「研究基金」	一五、〇〇〇・〇〇
「損失補填積立金」	一五、〇〇〇・〇〇
「従業員退職慰勞積立金」	一五、〇〇〇・〇〇
「工事退職手當引當積立金」	一五、〇〇〇・〇〇
「役員賞與金」	一五、〇〇〇・〇〇
「株主配當金」	一五、〇〇〇・〇〇
「後期繰越金」	一五、〇〇〇・〇〇

合和製藥股份有限公司定款

合和製藥股份有限公司定款

第一章 總則

第 壹 條

富公司ハ合和製藥股份有限公司ト稱ス

第 貳 條

富公司ハ左ノ學藥ヲ營ムヲ以テ目的トス

一 租製エフエドリン及純鹽酸エフエドリンノ製造並ニ賣買

一 前號ニ附帶スル業務

第 參 條

富公司ハ本店ヲ張家口ニ設置シ政府ノ認可ヲ得テ必要ノ

地ニ支店、出張所又ハ工場ヲ設ケル事ヲ得

第 四 條

富公司ノ資本金ハ蒙幣壹百萬圓トス

第 五 條

富公司ノ公告ハ蒙疆新聞ニ掲載シテ之ヲナス

第二章 株式

第 六 條

富公司ノ株式ハ貳萬株トシ壹株ノ金額ヲ蒙幣五拾圓トス

第 七 條

株金ノ拂込ハ全額拂込トシ株金拂込ニ當リ明日ヲ逸シタ

ル株主ハ拂込期日ノ翌日より拂込當日迄百圓ニツキ日歩四錢ノ割合

ヲ以テ延滞利息ヲ公司ニ支拂ヒ尙之ガ爲生ジタル費用及損害ヲ負擔

スルモノトス

第八條 當公司ノ株式ハ記名式トシ壹株券、拾株券、百株券、千株券ノ四種トス

第九條 當公司ノ株式ヲ譲渡又ハ質入スルニハ取締役會ノ承諾ヲ得ル事ヲ要ス

第十條 株券ノ裏書ニ因ル株式ノ譲渡ハ之ヲ禁止ス

第十一條 前條ノ規定ニ從ヒ株式ヲ譲渡シテ其ノ名義書換ヲ請求セシトスル場合ニ於テハ當公司所定ノ請求書ニ譲渡人及譲受人連署ノ上株券ヲ添ヘ當公司ニ提出スルコトヲ要ス

第十二條 相續、遺贈、其他譲渡以外ノ原因ニヨリ株式ヲ取得シテ其ノ名義書換ヲ請求モントスル場合ニ於テハ當公司所定ノ請求書ニ株券及戸籍謄本其ノ他其ノ原因ヲ證明スルニ足ルベキ書類ヲ添ヘ當公司ニ提出スルコトヲ要ス

第十三條 前項ニ定ムル株式ノ名義書換手数料ハ壹株ニ付貳角トス

第十四條 第八條ノ規定ニ從ヒ株式ヲ質入シタル場合ニ於テ質權ノ登録ヲ請求スルニハ質權者及質權設定者連署ヲ以テ當公司所定ノ請求書ニ株券ヲ添ヘ當公司ニ提出スルコトヲ要ス、其ノ抹消ニ付キ亦同シ

第十五條 毎決算期終了ノ日ヨリ其ノ期定時總會終了ノ日迄株式ノ名義書換、質權ノ登録及其ノ抹消ヲ停止ス

第十六條 臨時總會ノ通知ヲ發シタル日ヨリ同總會終了ノ日迄亦同シ

第十七條 株券ヲ喪失シタルトキハ當公司ニ對シ遑滯ナク其ノ事實ヲ届出ヅルコトヲ要ス、但シ喪失ニ因リ新株券ノ交付ヲ請求スルニハ當公司所定ノ請求書ニ除權判決ノ謄本ヲ添ヘ當公司ニ提出スルコトヲ要ス

第十八條 株券ノ汚損シタル場合ニハ當公司所定ノ請求書ニ株券ヲ添ヘ新株券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ汚損ニ因リ眞偽判別シ難キ時ハ喪失ト看做ス

第十九條 前一項及二項ノ新株券交付ノ手数料ハ壹株ニ付五角トス

第二十條 株主、質權者又ハ其ノ代理人ハ其ノ氏名、住所及印鑑ヲ當公司ニ届出ヅベシ其ノ變更アリタル時亦同ジ

第二十一條 株主、質權者其ノ氏名ヲ變更シタルニ因リ株式ノ名義變更ヲ請求スル場合ニハ第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 前條ニ定メタル届出ヲ怠リタルニ因リ生シタル故障又ハ損害ニ付テハ當公司其ノ責ニ任セス

第三章 株主總會

第拾八條

當公司ノ株主總會ハ定時、臨時ノ二種トス、定時總會ハ毎年六月及十二月ニ之ヲ開キ臨時總會ハ必要アル場合之ヲ招集ス招集ノ場所ハ本店所在地ノ外大阪市ニ於テモ之ヲ開催スルコトヲ得

第拾九條

總會ニ於ケル株主ノ議決權ハ壹株ニ付一個トス

第貳拾條

總會ノ議事ハ法令ニ特別ノ規定アル場合ノ外出席株主ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ其ノ議決權ヲ行フコトヲ妨ケス

第貳拾壹條

株主ハ代理人ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得但シ當公司ノ株主ニ限り代理人タルコトヲ得ルモノトス

第貳拾貳條

總會ノ議長ハ取締役社長之ニ當ル取締役社長差支アルトキハ他ノ取締役之ニ代リ取締役全員差支アルトキハ出席株主ノ互選ニヨリ議長ヲ定ム、但シ監査役ノ招集シタル株主總會ニ於テハ監査役議長トナルモノトス

第貳拾參條

總會ニ於ケル議事ノ經過ノ要領及其ノ結果ハ之ヲ議事録ニ記載シ議長並ニ出席シタル取締役及監査役之ニ署名スルコトヲ要ス

第四章 役員

第貳拾四條

當公司ノ役員左ノ如シ

取締役

五名以上七名以内

監査役

三名以内

第貳拾五條

當公司ハ取締役ノ互選ニヨリ取締役社長一名、常務取締役若干名ヲ定ムルコトヲ得

第貳拾六條

取締役社長、常務取締役ハ各自ニ公司ヲ代表ス

第貳拾七條

取締役社長ハ業務ヲ總括シ常務取締役ハ社長ヲ補佐シ營業ニ關スル事務一切ヲ監督處理シ其ノ實ニ任スルモノトス

第貳拾八條

取締役ハ六拾株以上、監査役ハ貳拾株以上ノ株主中ヨリ株主總會ニ於テ選任ス

第貳拾九條

取締役ノ任期ハ滿三年、監査役ノ任期ハ滿一年トス但シ任期滿了ノ場合再選スルヲ妨ケス

取締役及監査役ノ任期ガ其任期中ノ最終決算期ニ關スル定時株主總會ノ終結前ニ滿了スル場合ニ於テハ其ノ總會ノ終結ニ至ルマデ之ヲ伸長ス

第參拾條

取締役ハ就任ノ日ヨリ退任後責任解除ノ日迄其ノ所有ニ

係ル、當公司株式壹百株ヲ監査役ニ供託スルモノトス
第拾壹條 取締役又ハ監査役ニ缺員ヲ生シタルトキハ株主總會ニ於テ補缺員ヲ選任ス

但シ法定ノ員數ヲ缺カサル場合ニ於テハ補缺選舉ヲ行ハサルコトヲ得、補缺員ノ任期ハ前任者ノ残存期間トス

第拾貳條 重要ノ事務ヲ議決セシムル爲取締役會ヲ組織ス

取締役會ハ取締役社長之ヲ招集シ其ノ議長トナル取締役社長差支アルトキハ他ノ取締役之ニ代ル取締役會ノ議事ハ出席取締役ノ過半數ヲ以テ之ヲ議決ス

但シ株主總會ノ招集ニハ取締役過半數ノ決議アルコトヲ要ス
取締役會ニ於テ議決シタル事項ハ決議錄ニ記載シ出席シタル取締役之ニ署名スルモノトス

第拾參條 監査役ハ公司ノ業務及公司財産ノ狀況ヲ監査シ且ツ必要アリト認メタルトキハ株主總會ヲ招集スルコトヲ得
第拾四條 取締役及監査役ノ報酬ハ株主總會ニ於テ決議シ取締役會ハ其ノ範圍内ニテ各自ノ分配額ヲ定ムルモノトス

第五章 計 算

第拾五條 當公司ノ計算ハ年二回トシ毎年四月及十月ヲ以テ決算期トス

第拾六條 當公司ノ損益計算ハ毎期總益金ヨリ總損益ヲ控除シタルモノヲ以テ純益金トシ左ノ通り之ヲ處分ス

一 法定積立金 百分ノ拾

二 役員賞與金 若 干

三 株主配當金 若 干

四 後期繰越金 若 干

但シ株主總會ノ決議ヲ以テ特別ノ積立金其ノ他適法ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第拾七條 株主配當金ハ毎決算期現在ノ株主ニ配當シ其ノ拂渡期間ヲ定時總會終結ノ日より二週間以内トス

前項ノ期間經過後滿三年以内ニ配當金ノ拂渡ヲ請求セザル株主ハ配當請求權ヲ喪失スルモノトス

第六章 附 則

第拾八條 當公司發起人ノ住所氏名及引受株數左ノ如シ
 電 百 株 元 不 天
 九千七百株 大阪府池田市七二六番地 瀧 野 勇
 九千七百株 兵庫縣芦屋市芦屋子山角一〇八三番地 森 本 寛三郎
 電 百 株 大阪府豊中市榎塚東浦六丁目一番地 野 町 光 盛
 電 百 株 東京市中野區城山町二二番地 岡 澤 良 次
 電 百 株 天津日本租界旭街參ノ番 大 田 殖 徳
 電 百 株 大阪市住吉區北畠中二丁目七三番地 稻 垣 重 信
 電 百 株 西宮市前濱町一ル番地 總 井 正五郎

第拾九條 當公司成立ノ時ヨリ最初ノ決算期ニ至ル期間ガ二ヶ月ニ
 滿タサル場合ハ第拾四條ノ規定アルニ不悞之ヲ翌期ニ繰延ヘ計算
 スルコトヲ得

第四拾條 當公司設立ニツキ現物出資セルモノ左ノ如シ
 瀧 野 勇

機 器 名	數 量	單 價	價 額
ランカシヤボイ附屬品一式	二 台	二二〇〇圓	四四〇〇圓
エフエドリン 抽出機	六 台	一二〇〇〇	七二〇〇〇
エフエドリン 抽出補助機	一 台	四五〇〇	四五〇〇
眞 空 蒸 發 釜	二 台	四〇〇〇	八〇〇〇
ブラシジャーボンブ	一 台	七〇〇	七〇〇
ウオシントンボンブ	二 台	一六〇〇	三二〇〇
水 揚 ボ ン ブ	二 台	二〇〇〇	四〇〇〇
眞空蒸發ボ ン ブ	三 台	一三〇〇	六九〇〇
深井戸ボ ン ブ	二 台	二五〇〇	五〇〇〇
眞空蒸發用レシーバ	六 個	四〇〇	二四〇〇
既 有 切 斷 機	六 台	三二〇〇	一九二〇〇
研 磨 機	二 台	二五〇〇	五〇〇〇
パ イ プ 類	一 式	一七七〇〇	一七七〇〇
其 他 附 屬 品	一 式	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇
シ ャ フ ト 類	一 式	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇

機 器 名	数 量	単 價	價 額
三〇HP モーター	二 台	一五〇〇圓	三〇〇〇圓
二〇HP モーター	二 台	一、一〇〇、	二、二〇〇、
一〇HP モーター	三 台	七〇〇、	二、一〇〇、
五HP モーター	三 台	四〇〇、	一、二〇〇、
計			一三、一〇〇圓

右ニ割當タル株式

四千六百貳拾貳株

右合和製藥股份有限公司設立ノタメ定款ヲ作成シ發起人左ニ署名捺印ス
昭和 年 月 日

合和製藥股份有限公司

發 起 人
元 不 丈 夫
瀧 野 勇

同 同 同 同 同 同
森 野 岡 大 稻 龜
本 町 澤 田 垣 井
寛 光 良 殖 重 正
三 盛 次 總 信 五
郎 郎

發
起
人
履
歷
書

研-0 6 1 3



本籍地
現住所

徳島縣阿波郡八幡町大字大野島五番屋敷
蒙園張家口市福壽街參拾六號

戸主 舜三長男

モト 元
不キ
シヨウ 丈
夫フ

明治四拾四年拾月貳日生

履歴

學業

大正拾參年四月 兵庫縣立第二神戸中學校ニ入學

昭和五年參月 同校卒業

昭和五年四月 大阪藥學專門學校ニ入學

昭和八年參月 同校卒業

昭和八年四月 職業

實母ノ設立セル日佛高等美容女學校ノ經營及化粧
品化學ノ教授ニ携ハル

昭和拾壹年七月 株式會社武田長兵衛商店ニ入店

昭和拾六年貳月 武田長兵衛商店昭家口出張所開設ト共ニ同出張所

ニ轉任シ現在ニ至ル

兵 役

昭和 九年 九月 現役兵トシテ歩兵第四拾參聯隊ニ入營

昭和 九年 五月 陸軍衛生部幹部候補生ヲ命ゼラル

昭和 拾年 九月 滿期除隊ト同時ニ豫備役陸軍衛生部幹部候補生ヲ命ゼラル

昭和 拾年 拾月 士官勤務演習ニ應召豫備役陸軍見習藥劑官ヲ命ゼラル

賞 罰

右之通り相違無之候也

昭和拾七年拾貳月

右
元 木 丈 夫

履 歴 舊

本 籍 地 京都府北桑田郡神吉村第壹番戸

現 住 所 大阪府池田市七百貳拾六番地

平 民 戸 主

瀧 野 勇
明治拾六年五月四日生

學 業

明治拾參年七月 日 第三高等學校卒業

明治四拾貳年七月拾日 東京帝國大學醫科大學藥學科卒業

明治四拾四年五月拾六日 藥劑師免許證書下附

昭和 參 年 九月 四 日 藥學博士ノ學位ヲ受ク

職 業

明治四拾貳年七月拾六日 大日本製藥株式會社技師ニ任命セラル

明治四拾四年九月拾貳日 試驗部主事ニ命セラル

明治四拾五年貳月五日 試驗部々長ヲ命セラル

明治四拾五年五月八日 理學兼技師ニ命セラル

「大正 四 年 貳月 七日 營業部長兼任ヲ命セラル

「大正 六年 八月、拾 壹日 本店支配人ヲ命セラル

「大正 七年 六月 貳拾 四日 取締役ニ就任爾來重任現今ニ至ル

「大正 八年 壹月 參拾 日 大阪製煙同業組合評議員ニ當選

「大正 九年 壹月 貳拾 參日 大阪製煙卸仲買商組合議員ニ當選現今ニ至ル

「昭和 貳年 五月ヨリ同年拾 貳月迄歐米各國ニ藥業界ヲ視察ス

「昭和 四年 參月 貳拾 五日 大阪製煙同業組合組長ニ當選就任シ爾來重任現今ニ至ル

「昭和 四年 六月 貳拾 參日 支配人ヲ解任セラル

「昭和 四年 六月 貳拾 四日 大日本製煙株式會社株主總會ニ於テ代表取締役ニ選定就任ス

「昭和 五年 貳月 七日 日本藥局方調査會臨時委員仰付ラル

「昭和 五年 拾月 參拾 日 内務省衛生局藥業振興協議會委員ヲ委嘱セラル

「昭和 六年 拾貳月 貳拾 壹日 大日本製煙株式會社取締役社長ニ就任爾來

「昭和 七 年 拾月 七日 重任現今ニ至ル

「昭和 拾貳年 拾貳月 七日 内務省藥業振興調查委員ヲ委嘱セラル

「昭和 拾參年 參月 拾 七日 社団法人大阪實業組合聯合會監事ニ當選

「昭和 拾參年 參月 拾 七日 同 理事ニ當選

「昭和 拾參年 參月 貳拾 八日 大阪藥學專門學校監事ニ當選

「昭和 拾參年 七月 貳日 大阪府化學工業品物價專門委員會專門委員ヲ命セラル

「昭和 拾參年 八月 貳拾 八日 大阪藥學專門學校理事ニ當選現今ニ至ル

「昭和 拾參年 拾月 五日 五倍子需給調整委員會委員長ヲ命セラル

「昭和 拾四年 參月 拾 日 (商工省)

「昭和 拾四年 參月 拾 日 船場警察署經濟警察協議會協議員ヲ委嘱セラル

「昭和 拾四年 四月 八日 日本藥學會常議員ニ當選

「昭和 拾四年 七月 五日 大阪府經濟警察協議會一般物價關係專門協議會協議員ヲ委嘱セラル

「昭和 拾五年 貳月 貳拾 貳日 大阪府經濟警察協議會協議員會議長ニ當選

「昭和 拾五年 參月 五日 大阪府經濟警察協議會藥品關係專門協議會協議員ヲ委嘱セラル

「昭和拾五年参月 六日
 通藥品ノ價格統制及供給確保ニ關スル事務ヲ囑託セラル
 (厚生省)」

「昭和拾五年参月 七日
 化學工業品物價專門委員會ヲ命セラル
 (商工省)」

「昭和拾五年五月貳拾壹日
 通藥品價格形成專門委員會專門委員ヲ命セラル
 (商工省)」

「昭和拾六年貳月拾七日
 資源調査員ヲ命セラル(通藥品調査員ニ指定)
 (大阪府)」

「昭和拾六年四月拾九日
 金屬類回收協議會委員ヲ委囑セラル
 (商工省)」

「昭和拾六年五月 参日
 日本東亞必需品輸出組合通藥業務委員會大阪支部委員ヲ囑託セラル

「昭和拾六年七月拾七日
 日本通藥品配給統制株式會社取締役ニ就任

「昭和拾六年七月拾九日
 日本通藥品生產統制株式會社取締役ニ就任

「昭和拾六年七月参拾壹日
 財團法人商業科學研究協會評議員ヲ委囑セラル

「昭和拾六年拾貳月壹日
 大阪市東區道修町三、四丁目町會長ヲ委囑セラル

「昭和拾七年壹月拾五日
 金屬類回收協議會委員ヲ委囑セラル(大阪府)」

「昭和拾七年貳月貳拾八日
 農林省及商工省所管重要物資資源調査員ヲ命セラル
 (大阪府)」

兵 役
 ナ シ

賞 勳
 「昭和拾壹年四月内務省衛生局藥劑檢査員として功勞トシテ
 内務大臣ヨリ銀花冠章個賜ハル
 「勳ヲ受ケシコトナシ
 右之通り相違無之候也
 昭和拾七年拾貳月拾四日

右
 瀧 野 勇

本籍地 兵庫縣芦屋市芦屋字山角千八拾番地
現住所 右 戸主

履 歴 書

森 本 寛三郎
明治貳拾五年拾貳月拾參日生

學 業

大正七年七月 京都帝國大學法科大學政治經濟學科卒業
職 業

大正七年拾貳月 株式會社武田長兵衛商店ニ入店

大正拾四年壹月 株式會社武田長兵衛商店監査役就任

昭和貳年貳月 株式會社小西新兵衛商店監査役就任

昭和四年壹月 ヨリ滿一ヶ年歐米各地經濟狀況視察

昭和六年拾壹月 チカネリ一裁檢株式會社爪哇監事就任

昭和八年七月 株式會社武田長兵衛商店取締役就任

昭和拾參年五月 武田榮養化學株式會社取締役社長就任

昭和拾參年七月 株式會社武田長兵衛商店常務取締役就任
 昭和拾四年拾月 武田藥品株式會社（上海）取締役社長就任
 昭和拾四年拾壹月 滿洲武田藥品株式會社取締役就任
 昭和拾五年八月 武田化成株式會社監査役就任
 昭和拾六年參月 臺灣武田藥品株式會社取締役就任
 昭和拾六年四月 朝鮮武田藥品株式會社取締役社長就任
 昭和拾六年拾貳月 武田榮養化學株式會社取締役會長就任

退役陸軍主計少尉

賞 勳

一 ナ シ

右之通り相違無之候也

昭和拾七年拾貳月八日

右 森 不 寛 三 郎

履 歴 舊

本籍地 大阪府豊中市榎塚東通六丁目壹番地
 現住所 右 同

野 町 光 盛
 明治貳拾九年壹月八日生

舊本籍 高知縣安藝郡赤野村乙七拾四番地金松ノ三男ニ
 生レ昭和拾六年拾貳月分家轉籍ス

一 明治四拾壹年參月 安藝郡相岐村藝西高等小學校卒業
 一 大 正 貳年貳月 株式會社武田長兵衛商店ニ入社今日ニ至ル
 一 兵 役 丙 糧
 一 賞 勳 ナ シ
 右之通り相違無之候也

昭和拾七年拾貳月

右 野 町 光 盛

昭和四年	大正拾五年	大正六年	明治四拾參年拾貳月	明治參拾七年四月	明治參拾參年貳月	明治參拾年九月
六月	六月	八月			學	學
東京支店支配人解任	取締役ニ就任	東京支店支配人ニ任セラル	東京支店長ヲ命セラル	東京支店主任ヲ命セラル	大日本製藥株式會社へ入社	官立大阪工業學校應用化學科第一學年修了

岡 澤 良 次
明治拾五年拾貳月拾貳日生

履 歴 警
本 籍 地 東京市中野區城山町貳拾貳番地貳
現 住 所 右 同 戶 主



昭和五年 七月 常務取締役兼東京支店長
臨時外務省ノ事務ヲ囑託セラル
麻藥業者代表トシテ歐洲ニ出張歸途歐米各國ノ

昭和六年 一月 歸朝
臨時外務省ノ事務囑託ヲ解カル

右之通り相違無之候也
昭和拾七年拾壹月拾四日

岡 澤 良 次

履 歴 (發起人總代)
原 籍 山口縣防府市三田尻町番百九拾五番地
現 住 所 天津日本租界旭街參 番地ノ參

大 田 殖 穂
明治拾五年拾月拾日生

大正拾壹年參月 九日 東京海城中學校卒業
大正拾貳年四月 一日 京都藥學專門學校入學
大正拾五年參月廿一日 同 校 卒 業
大正拾五年七月拾四日 藥劑師免許狀第一七六六五號ヲ受ク
大正拾五年拾貳月 一日 一年志願兵トシテ京都九聯隊ヘ入隊
昭和 貳年拾月 一日 同隊滿期除隊
昭和 貳年拾月 拾日 愛知縣豐橋市豐橋病院藥局勤務
昭和 參年四月 一日 同 豐橋病院藥局長ニ任ス
昭和 五年參月 拾一日 陸軍藥劑少尉ニ任官ス

一昭和 五年四月拾五日 正八位ニ叙セラル
 一昭和 七年六月 前記市立豊橋病院ヲ辭シ株式會社武田長兵衛商店へ入店ス
 一昭和 九年拾壹月 武田長兵衛商店奉天出張所へ轉任
 一昭和拾壹年 參月 武田長兵衛商店大連駐在所主任トシテ轉任
 一昭和拾參年 四月 武田長兵衛商店天津出張所主任トシテ天津出張所へ轉任 今日ニ至ル

右之通り相違無之候也

昭和拾七年九月零日

右 大 田 殖 穂

履 歴 暫
 本 籍 地 大阪府大阪市住吉區北畠中二丁目七拾參番地
 現 住 所 右 同

士 族

稻 垣 重 信
 明治拾七年八月八日生

一明治參拾九年七月 第四高等學校第二部ヲ卒 ス
 一明治參拾九年九月 東京帝國大學醫學部藥學科ニ入學ス
 一明治四拾貳年七月 同校卒業ス
 一自明治四拾貳年九月至明治四拾四年 東京藥學校講師囑託
 一明治四拾四年參月 任大阪府技師敍高等官七等
 一明治四拾四年五月 敍從七位
 一 大正 貳 年五月 敍高等官六等

大正 貳 年 八月 敘正七位
 大正 五 年 四月 藥劑師試験委員被仰付
 大正 五 年 六月 敘高等官五等
 大正 五 年 七月 敘從六位
 大正 六 年 七月 依願免本官
 自大正 八 年 七月 中村醫藥研究所技師員トシテ在職ス
 大正 八 年 拾月 大日本製藥株式會社ニ入社製藥部長ヲ命セラル
 昭和 拾壹年 零月 同社常務取締役ニ就任シ製藥部長並ニ試験部長
 ヲ兼務シ重任現在ニ至ル
 昭和 拾 四年 五月 藥學博士ノ學位ヲ受ク
 賞 罰 ナシ
 右之通り相違無之候也

昭和拾七年拾壹月

右 稻垣重信

履 歴 警
 本 籍 地 西宮市前濱町拾九番地
 現 住 所 右 同

龜井正五郎
 明治貳拾五年拾月貳拾九日生

明治 四 拾 四年 八月 大日本製藥株式會社製藥部ニ入社ス
 大正 四 年 參月 福島私立大阪藥學校夜學部ヲ卒業ス
 大正 六 年 五月 東京遊學ノ爲休職ヲ命セラル
 大正 九 年 參月 東京獨逸語專習學校ヲ卒業ス
 大正 九 年 四月 大日本製藥株式會社技手ニ採用セラレ製藥部勤
 務ヲ命セラル
 大正 拾 參年 五月 技師ニ任セラル
 昭和 拾 六年 貳月 製藥第一課長ヲ命セラレ現在ニ至ル
 賞 罰 ナシ

右之通り相違無之候也
昭和拾七年拾貳月四日

右本人

龜井正五郎

技術者履歴書

研-0613

0099

本籍地 西宮市前濱町拾九番地
 現住所 右 同

履 歴

龜 井 正 五 郎
 明治貳拾五年拾月貳拾九日生

明治四拾四年八月	大日本製藥株式會社製藥部ニ入社ス
大正四年拾月	福島私立大阪藥學校夜學部ヲ卒業ス
大正六年五月	東京遊學ノ爲休職ヲ命セラル
大正九年參月	東京獨逸語專習學校ヲ卒業ス
大正九年四月	大日本製藥株式會社技手ニ採用ナラレ製藥部勤
大正拾參年五月	務ヲ命セラル
昭和拾六年貳月	技師ニ任セラル
賞 罰	製藥第一課長ヲ命セラレ現在ニ至ル
	ナ シ

右之通り相違無之候也
昭和拾七年拾貳月四日

右本人

總井正五郎

發起人代表へ對スル委任狀

研-0613

委任状

拙者等元不更天ヲ以テ代理人ト相定メ左記ノ權限ヲ委任ス
一合和製藥股份有限公司設立認可申請手續ニ關スル一切ノ件
右委任狀仍而如件

昭和拾七年拾貳月 日

大阪府池田市七二六番地

瀧野 勇

兵庫縣芦屋市菅屋字山角一〇八三番地

森 本 寛三郎

大阪府豊中市豊原東通六丁目一番地

野 町 光 盛

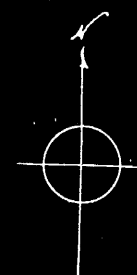
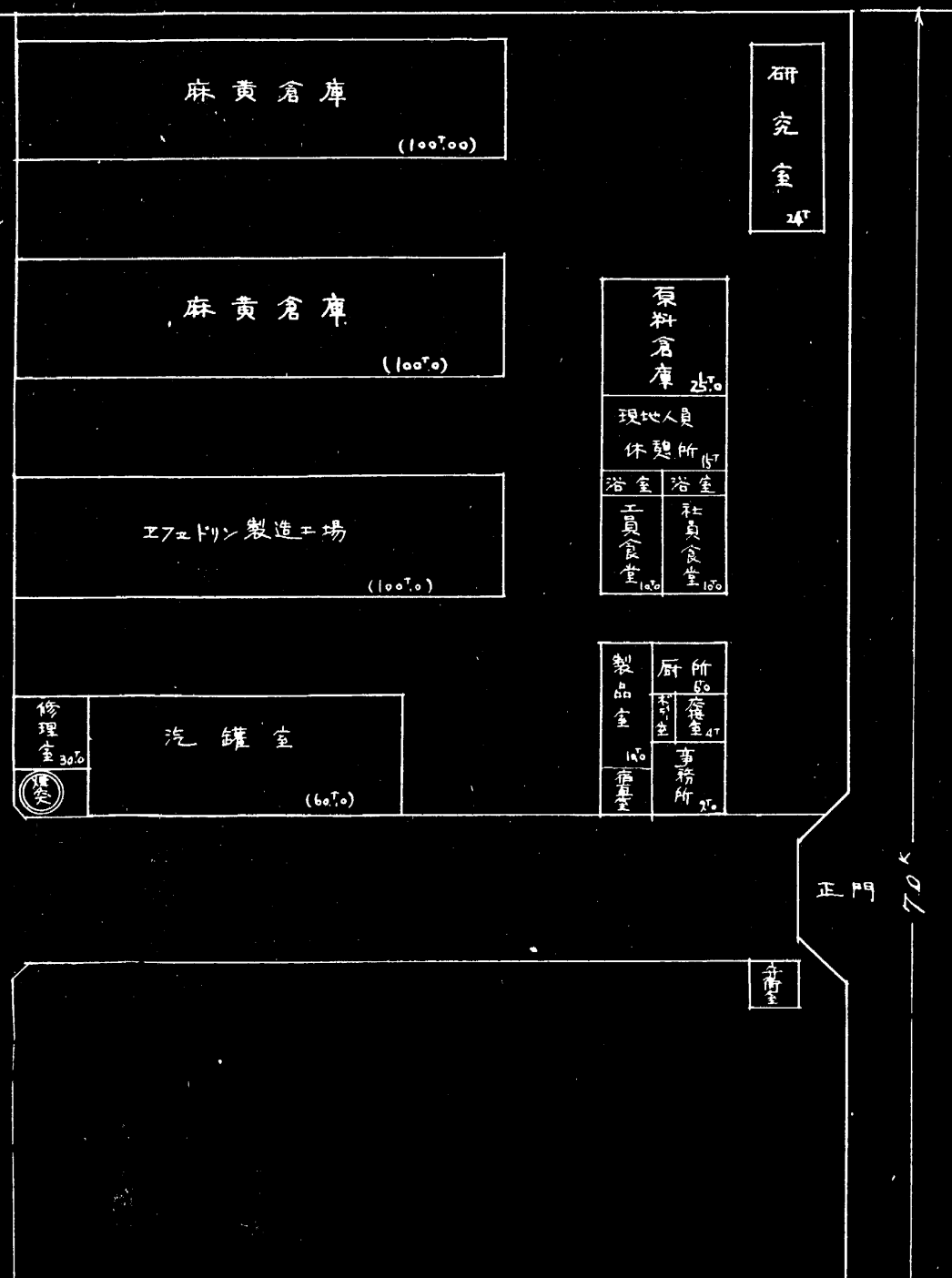
東京市中野區城山町二二番地

岡 澤 良 次

大津日本租界旭街三ノ三
大田殖樹
大阪市住吉區北島中二丁目七三番地
稻垣重信
西宮市前濱町一九番地
龜井正五郎

下和大藥廠製藥工場新設計畫圖

縮尺四百分之壹

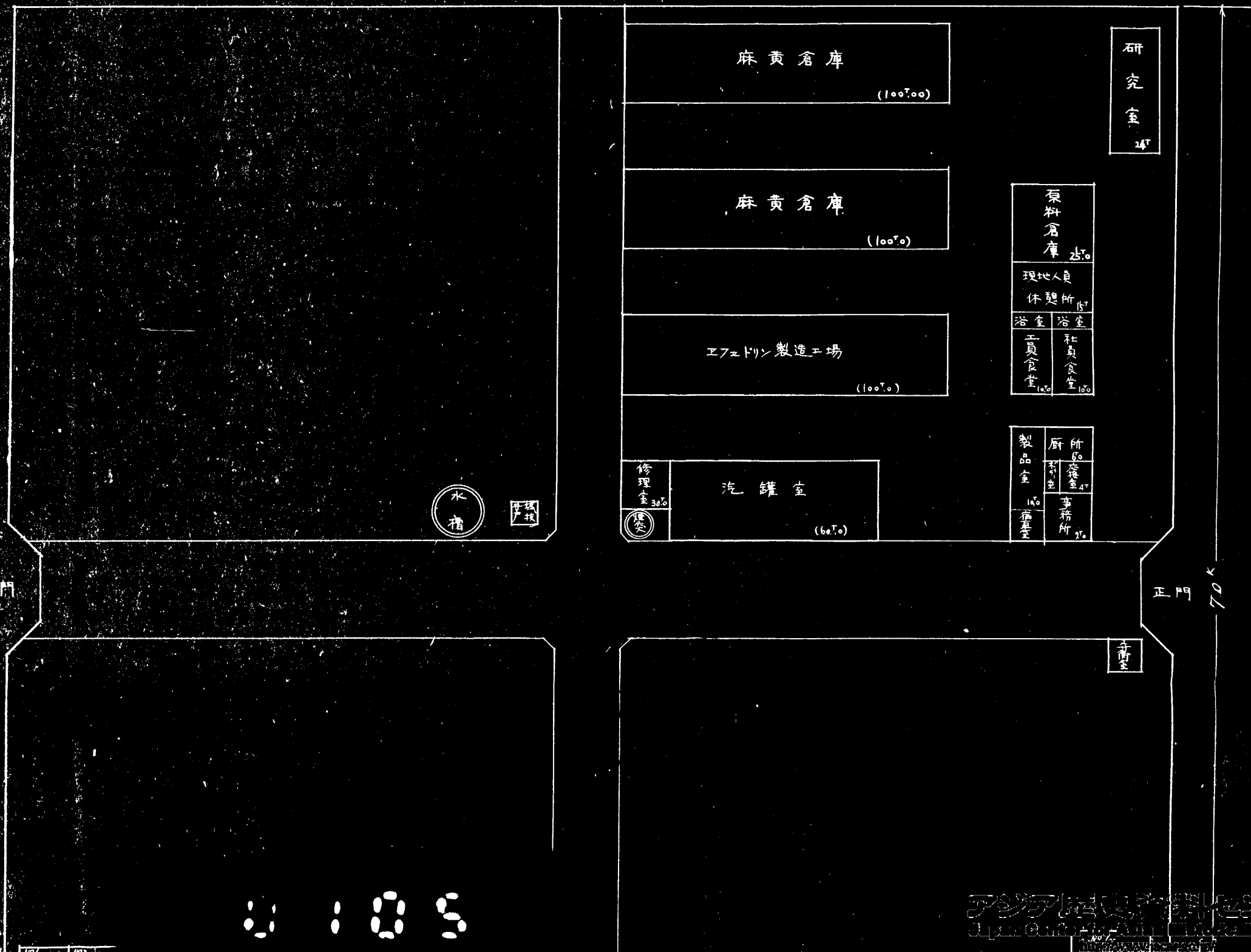


研-0613

0104

合和大藥廠製藥工場新設計畫圖

縮尺四百分之



研-0613

0:05

アジアル製薬株式会社

東門

正門

水
槽

排水
溝

エフエドリン製造工場

(100.0)

汽 罐 室

(60.0)

製品室 10.0	所 庫 6.0
	事務所 9.0

休憩所 15.0	浴室 10.0
社員食堂 10.0	社員食堂 10.0

修理室
30.0

NO.1 社員住宅 12.0	NO.2 社員住宅 12.0	NO.3 社員住宅 12.0	NO.4 社員住宅 12.0	NO.5 社員住宅 12.0
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

NO.6 社員住宅 12.0	NO.7 社員住宅 12.0	NO.8 社員住宅 12.0	NO.9 社員住宅 12.0	NO.10 社員住宅 12.0
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------

NO.1
社 宅
25.0

社員寄宿舎 24.0	社員住宅 18.0	社員住宅 18.0
---------------	--------------	--------------

社 宅
20.0

NO.2
社 宅
25.0

ク2

研-0 6 1 3

0 1 0 7

エフエドリン工場設備配置図

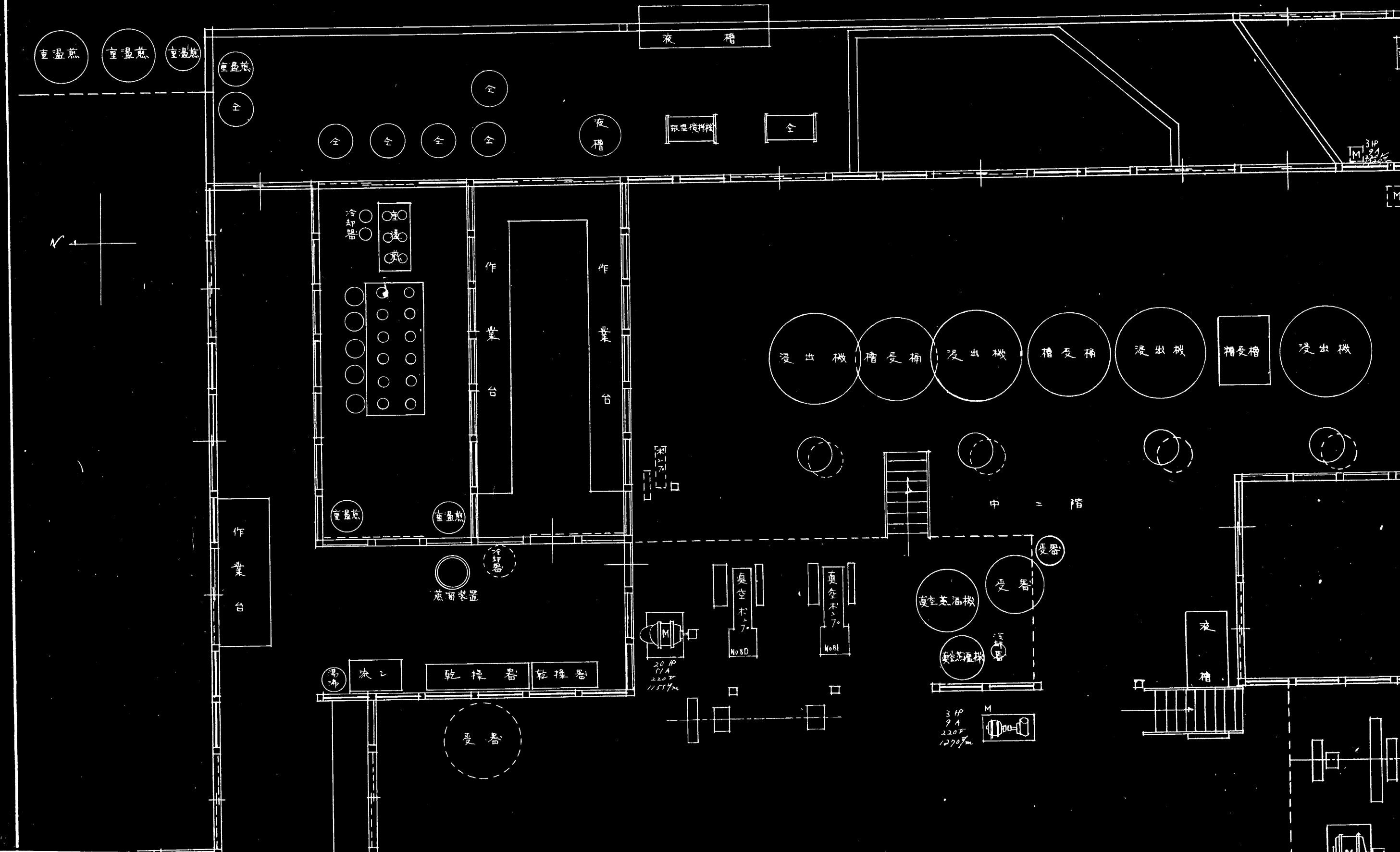
縮尺 五拾分之二



研-0613

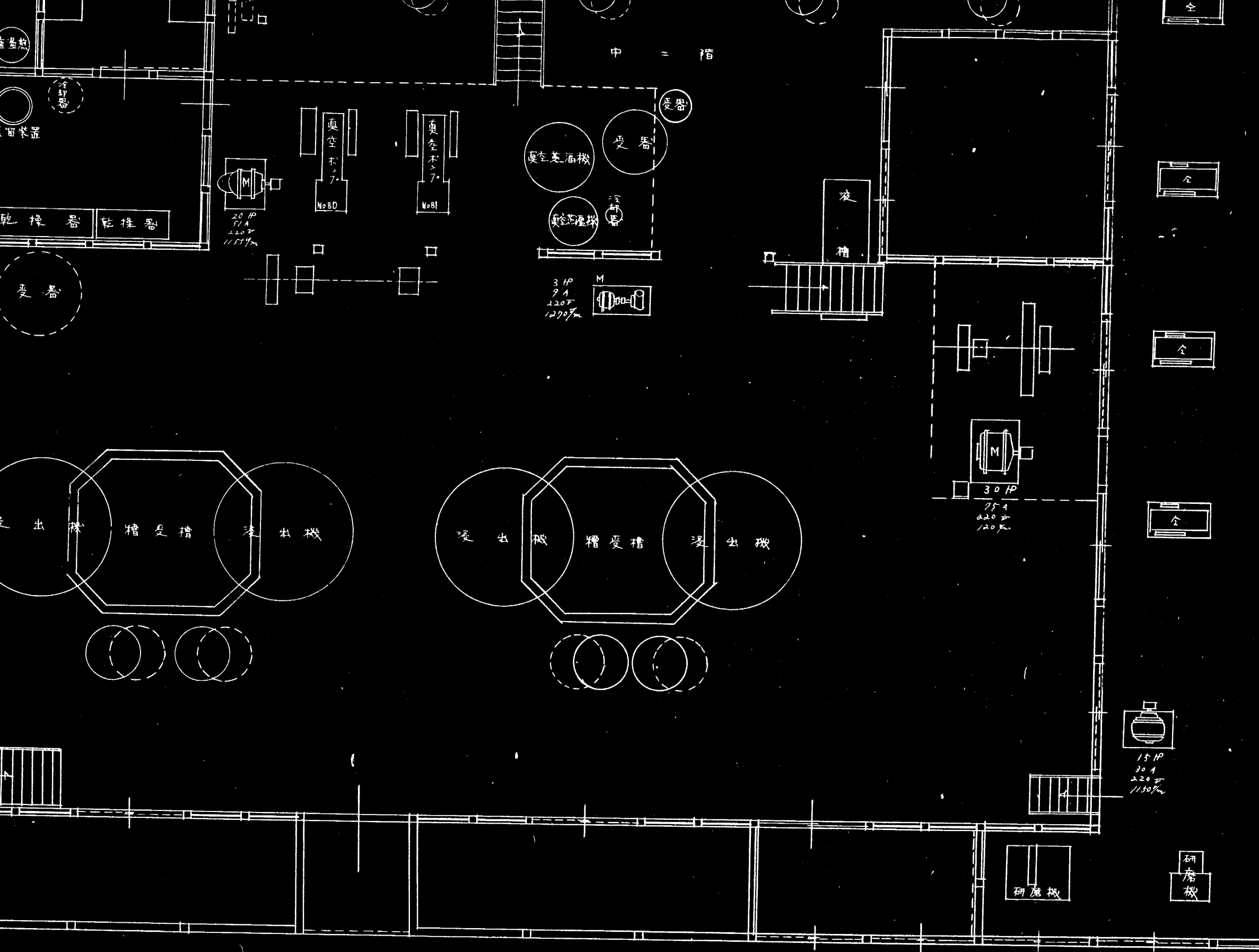
研-0613

0109

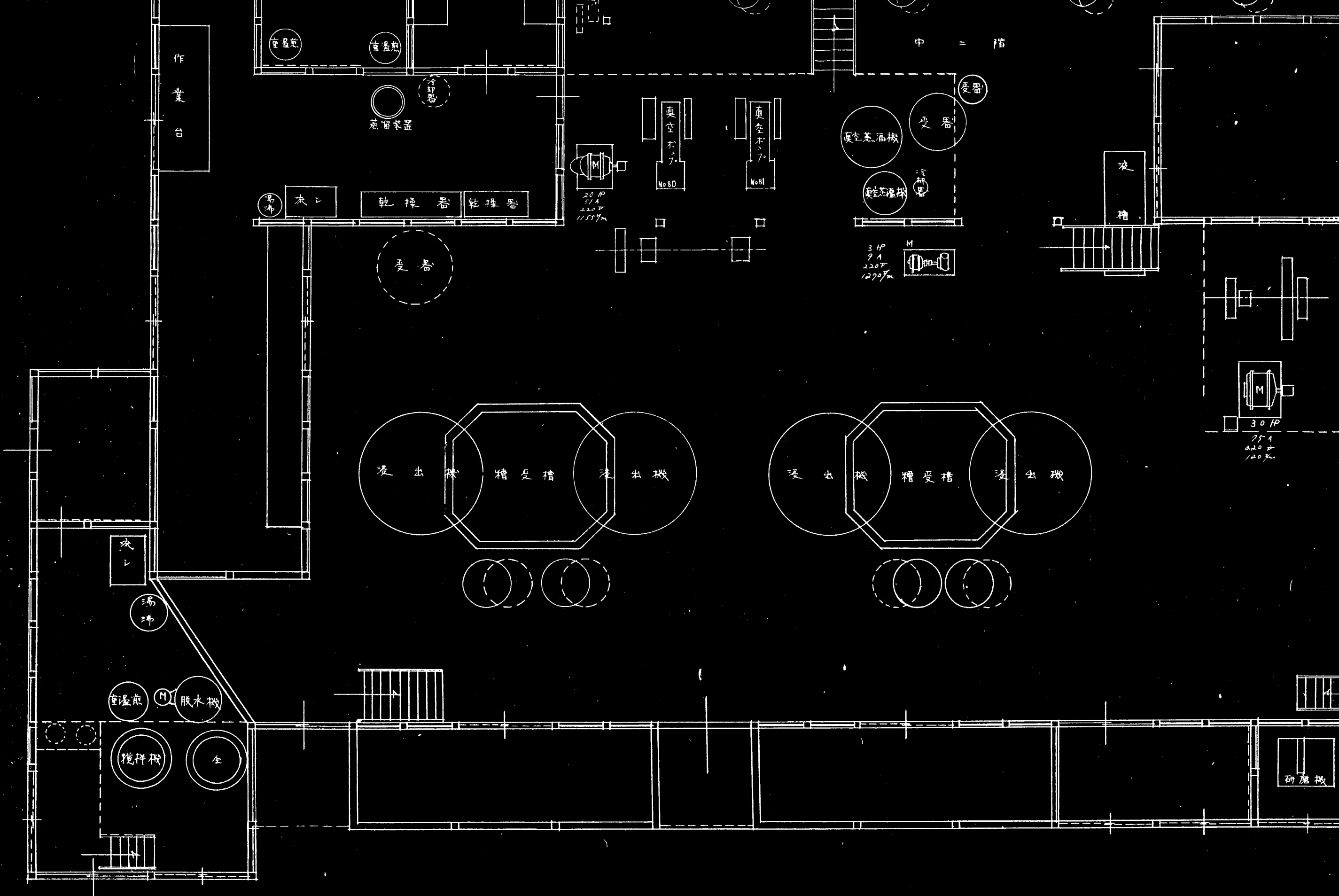


場設備配置圖

縮尺五拾分之二



研-0613



研-0613

0001.10 丙

一、支出ノ部

イ 原料費

ロ 材料費

ハ 容器及梱包材料費

一五、六〇〇・〇〇

ニ 粗製鹽酸エフエドリン

七、九四六・五〇

材料單價 金 額

五〇 匙入 四〇 個

五二・八五

二、〇七四・〇〇

(厚サ一寸ノ板ヲ以テ木組トシテ綴附)

五〇 瓦入 七八三個

七・五〇

五、八七二・五〇

四 精製鹽酸エフエドリン

六、五三・五〇

三 試驗研究用材料費

原料及製品ノ規格試驗ニ用フル藥品及其體ノ材料費

二 消耗工具費

最良修繕材料品、部分品等

四 工物消耗品

硝子器具類、磁類、ボロ布、電燈油、作業服類等

五 事務用消耗品

工場内ニテ消費スル傳票、用箋、文房具類等

ハ 直接賃金

平均日給

内地人工員 十名

七圓

七〇・〇〇

全 職長 一名

十二圓

一三〇・〇〇

現地人工員 三十名

二圓

六〇・〇〇

全 職長 一名

五圓

五〇・〇〇

全少年工及女工 十名

一圓五十錢

一五〇・〇〇

全 雜 役 四名

二圓八十錢

一、二〇〇

合計一日支拂賃金 一七三圓二〇錢(計五十六名)

ニ 製造間接費

一、七三六・〇圓

一 設備者給料

五名 平均一人當リ 四五四圓 計二、二七〇・〇〇

二 賞與手當

給料者賞與 年六ヶ月分 一、三六二・〇圓

三 福利施設費

工員賞與及手當 六七二・〇圓 計二、〇三四・〇圓

從業員疾病ニ對スル治療費、住宅補修維持費

減償償却費

工場建物、倉庫一七、九〇〇圓及び貯蔵設備九三、五四五圓ノ償却
總額二三、八九〇圓ヲ大藏省耐用年數表ニテ計算スレバ（十五ヶ
年一〇〇%一五九二六圓乃至七〇%一、一四八圓）トナルベキヲ
以テ償却年額ヲ一四、八一圓ト見禮リ計算セリ
工場機械昭和十二年ニ代償三三、七五圓ニテ購入シ以後毎年二
、二五五圓宛々計一〇、六二五圓ヲ償却シ現在二三、一〇〇圓ノ
價格ヲ残シ居レリ
右ハ醫藥品工業ノ機械設備ハ大藏省耐用年數表ニテ十年ト定メ
アルヲ以テ償却總額（九〇%）三〇、三六六圓ノ十分ノ一即チ三
〇、三六三圓ノ七〇%即チ二、二五五圓トシテ計算セリ

火災保険料

工場建物、動力及ボイラー室、研究室 一〇、九〇〇圓
機械二三、一〇〇圓計三三、〇〇〇圓ニ對シ年千圓ニ付十一圓ノ
割

修繕費

建物及機械ノ修繕費 月一五〇〇圓ノ割
電力 一六六六〇 kWh 使用 一 kW 一〇圓ノ割

石炭費

二五〇〇圓 一屯二〇圓ノ割

輸入税輸入諸掛 内地ヨリ輸入材料ニ對スル輸入税、引取運賃、
運送保険料、諸手数料等

- 10. 租税公課 工場關係ノ諸賦課金一切ノ見禮額
- 11. 通信 工場關係ノ電信電話料、郵便料等
- 12. 旅費 工場従業員ノ出張旅費、交通費
- 13. 交際費 工場従業員ノ交際費慶弔費等
- 14. 雑費 工場關係ノ雜費

役員報酬（豫定）

現地役員四名内常任二名 計三〇〇〇圓
他二名 六〇〇圓 内地居住役員四名 四〇〇圓

事務員給料

會計係 一名 四〇〇圓 四八〇〇圓
庶務係 一名 三五〇圓 四二〇〇圓
購買係 一名 四〇〇圓 四八〇〇圓

中古機器價格明細書

購入價格 三三七三七五圓（昭和十二年新調）
 償却額 一〇六二七五圓（自昭和十三年至全十七年、五ヶ年間）
 現在價格 二三一、一〇〇圓

内詳左ノ通り

機 器 名	数 量	単 價	入 金 額	現 在 價 格
ランカッシャーボーイ ラフ及附屬品一式	貳基	三三一五〇圓	六四三〇〇圓	四四〇〇〇圓
エフエドリン抽出機	六基	一七五〇〇	一〇五〇〇〇	七二〇〇〇
エフエドリン抽出補助機	壹基	六六〇〇	六六〇〇	四五〇〇
真空蒸發釜	貳基	五八五〇	一、一七〇〇	八〇〇〇
ブランジャーポンプ	壹基	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
ウォッシュポンプ	貳基	二、三五〇	四七〇〇	三、二〇〇
水揚ポンプ	貳基	二、九〇〇	五八〇〇	四〇〇〇
真空蒸發ポンプ	參基	三、四〇〇	一〇二〇〇	六九〇〇

深井戸ポンプ	貳基	三、六五〇圓	七三〇〇圓	二五〇〇圓	五〇〇〇圓
真空蒸發用レシーバー	六個	六〇〇	三六〇〇	四〇〇	二四〇〇
酸黄切斷板	六張	四六六〇	二七九六〇	三、二〇〇	一九二〇〇
パイプ類	壹式	二五八八〇	二五八八〇	一七七〇〇	一七七〇〇
其他附屬品	壹式	二九一九五	二九一九五	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇
シヤンド類	壹式	一四六〇〇	一四六〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
モーター	貳基	二、二〇〇	四四〇〇	一、五〇〇	三、〇〇〇
モーター	貳基	一、六〇〇	三、二〇〇	一、一〇〇	二、一〇〇
モーター	參基	一、〇〇〇	三、〇〇〇	七〇〇	二、一〇〇
モーター	參基	五八〇	一、七四〇	四〇〇	一、二〇〇
併磨機	貳基	三、六〇〇	七二〇〇	二五〇〇	五〇〇〇
計			計三三、七三七五		計三三、一〇〇〇

鹽酸エフェドリン價格比較明細表

一、合和製藥ノ粗製品ヲ輸入シテ内地ニテ精製スル場合一疋製造原價金五百五拾圓拾錢也

ノ大阪着値段

(イ) 粗製エフェドリン五十疋入一箱 (大同渡) 代價	一五五・三八・四八
(ロ) 大同ヨリ天津迄ノ運賃	五・九六
(ハ) 全區間ノ運送保險料 (百圓ニ付四十錢)	六二・一五
(ニ) 天津ヨリ大阪迄ノ輸出税制料 (四%)	六二・一五
(ホ) 全區間運賃 (百圓ニ付二圓二〇錢)	三・四一・八四
(ヘ) 全區間保險料 (百圓ニ付四五錢)	六九・九二
(ト) 全區間關稅 (一五%)	二・三三・〇七
(チ) 内地輸入税 (二〇%)	一八・九七・〇六
合計 (大阪着値段)	三・七九・四一・三
右 一疋當リニ換算スレバ	二・七六・四・七九
	四五・五・二九

2. 内地ニ於ケル精製費用

(イ) 精製用原料費	二〇・八二
(ロ) 精製中ノ減耗量	二五・〇〇
(ハ) 精製諸經費	五〇・〇〇
合計	九五・八二

三、内地ニテ麻黄ヨリ精製鹽酸エフェドリンヲ製造スル場合

一、疋製造原價 金六百七圓九十二錢也 (公定價格ノ製造原價)

三、内地ノ公定販賣價格

一、疋 金七百貳拾四圓九拾四錢也

以上